

# 「ガイアの夜明け」が10周年 伝統を守りながら、さらなる進化へ

日本の再生を目指し、奮闘する人たちを見つめ続けて、『ガイアの夜明け』は10周年を迎えました。

## 2002年 第1回 「金融再編の現場！ 頭取の決断は？」

不良債権を抱えた銀行が生き残りをかけて金融再編を進めていく中、あさひ銀行（当時）の頭取に密着取材。「経済ドキュメンタリー」という新しいジャンルへの挑戦が始まった。



## 金融再編



## 2002年 第5回 「“世界の工場へ”～農村少女の旅立ち～」

中国の都市と農村の格差をテーマに「農村少女」シリーズ開始。以降10年間、農村少女の目線を通じて中国の成長と真実を追う。中国の実情をリアルにとらえた企画は高く評価され、2005年9月に「民放連 テレビ報道番組優秀賞」、2006年5月に「ギャラクシー賞・奨励賞」を受賞した。

『ガイアの夜明け』がスタートしたのは10年前の2002年4月。日本経済がバブル崩壊後のいわゆる「失われた10年」の暗闇から脱することができずにいた中、『ガイアの夜明け』はこれまでに類のない経済ドキュメンタリーとしてスタートしました。

番組の開始当初、世界規模で起こる経済事象を「映像で伝える」ことは試行錯誤の連続でしたが、『ガイアの夜明け』が一貫してこだわったのは、最前線にカメラが入ることで現場の動きを

## 中国

## 2004年 第108回 「過去の栄光を捨てろ！ ～企業再生のサムライたち～」

不良債権問題の処理が進む中、産業再生機構にフォーカス。一般的に興味を持ちにくいテーマでも視聴者に受け入れられた。

## 2003年 第60回 「潜入！北朝鮮 ～経済崩壊？“闇の隣国”～」

日本人拉致被害者の帰国が実現し、北朝鮮への関心が高まっている中、潜入取材を敢行。それまでで最も反響が大きい回となった。

## 2006年 第215回 「最先端！オーダーメイド医療 ～あなただけの治療法 選びます～」

個々人の体質に合わせて治療法を選択する「オーダーメイド医療」。最先端の医療の可能性に迫り、視聴者から広く支持された。

# 2002

日朝首脳会談、金融再生プログラム策定、サッカーW杯日韓大会

## 2003

SARS流行、イラク戦争開戦

## 2004

新潟県中越地震

## 2005

人口減少社会突入、介護保険法改正

## 2006

ライブドア事件

## 2007

サブプライム問題、年金記録問題

### ガイアの視点 ▶▶▶ 2002-2003

番組開始当時の日本経済のキーワードは「閉塞感」でした。スタート当初の『ガイアの夜明け』には、日本経済の夜明けを探るために積極的なテーマがラインアップに上がりましたが、その背景には経営危機や企業再生といった混乱がありました。

### ガイアの視点 ▶▶▶ 2004-2005

依然として厳しい状況に置かれる企業も多くなりましたが、金融機関の不良債権処理は進み、好業績の企業も現れるなど、景気回復の足取りは確かなものになってきました。番組で取り上げるテーマも新たな可能性に挑む前向きなものが増え、「挑戦」が大きなテーマとなっています。

### ガイアの視点 ▶▶▶ 2006-2007

多くの企業が最高益を出すなど景気回復はいつそう確かなものになりましたが、好景気の恩恵が偏ったことと経済成長が緩やかであったことから、個人レベルでは「好景気を実感できない」状況が続きました。景気回復を追い風にしたチャレンジや、好景気の波に取り残されながらも苦闘する姿など、番組テーマは多岐にわたりました。



現在進行形でとらえ、そこから経済の大きな変化の胎動を描きだすことです。説得力のある映像を撮るために、カメラはプロジェクトの成否が見えない時から現場に入り込んで、プロジェクトの進行を追い続けます。すべての取り組みが成功するわけではないので、企画が番組として成立するかはプロジェクトの成否とともにあるとも言えます。

こうした「日本経済の今」を丹念に追い続けた努力の結果、

『ガイアの夜明け』はテレビ東京のステーションイメージを担う番組に成長しました。

番組タイトル『ガイアの夜明け』には、「困難の中でも戦っている人たちがいる。そんな人たちがいる限り夜明けは必ず来る。日本は大丈夫だ。」というエールが込められています。この10年、激動する世界情勢の前に、社会システムの疲弊した日本は変化を問われ続けました。答えが定まらないなか発生した東日本大

震災は、問題を一段と浮き彫りにしました。

再び陥った混沌の時代を前に、『ガイアの夜明け』は原点に立ち返って、番組の社会的使命を再認識しています。これからも、『ガイアの夜明け』は日本の再生を目指して奮闘する人々を追い続け、番組をご覧の皆様が、「この国に、夜明けは必ず来る」と未来に希望を抱き、明日を探るきっかけになるような番組を目指します。

2008年 第305回

### 「マネー動乱 第2幕 ～中国パブルの行方とオイルマネー～」

サブプライムショック後、グローバルマネーの動きに着目し、リーマンショックの半年前に放送(2008年3月11日)。「マネー動乱」シリーズは2007年-2009年の2年間で4回放送した。



## 世界金融危機



## 震災復興

2008年 第317回

### 「世界を救うニッポンの技術 ～企業が果たす社会貢献とは～」

企業が事業活動を通じて社会貢献していくCSRに着目。貧富の格差や疫病など世界で深刻化している問題の解決に取り組む企業を紹介。歴代最高視聴率を獲得。

シリーズ企画

### 「復興への道」 13回放送

2011年3月29日にシリーズ第1回を放送。復興に向けた日本をテーマに、支援に取り組む企業や団体、個人にフォーカスしていく。

10周年シリーズ企画

### 「ニッポンの生きる道」

日本の経済、そして日本企業の進むべき道を様々な角度から検証し、問題提起をしていく1年間の特別シリーズ企画を放送。

# 日本再生



# 2012

ロンドンオリンピック、消費税増税法成立

2008

リーマンショック、北京オリンピック

2009

民主党へ政権交代

2010

口蹄疫流行、欧州債務危機拡大

2011

東日本大震災、アラブの春

#### ガイアの視点 ▶▶▶ 2008-2010

2007年夏のサブプライムショックに始まった経済動乱は、2008年9月のリーマンショックを引き起こし、世界経済を百年に一度と言われる大混乱に陥れました。業績が悪くなる企業が増えるにつれて取材も難しくなりましたが、番組は原点に立ち返って、苦境の中で「夜明け」を信じて奮闘する人たちの姿を追い続けました。

#### ガイアの視点 ▶▶▶ 2011-

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、日本の置かれた状況は一変しました。

『ガイアの夜明け』は「シリーズ 復興への道」として、いわゆる震災ニュースでは伝えられない、未曾有の危機に対して勇気を持って立ち向かう人々を追い続けました。同シリーズは震災後約2週間で初回放送にこぎつけ、半年間で13回を数えるシリーズになりました。

そして2012年、放送開始10周年企画として「ニッポンの生きる道」をシリーズで放送しました。この10年間で世界は大きく変化しましたが、日本の取るべき選択肢は未だ定まりません。もはや「まったなし」の状況にあります。

番組を通じて奮闘する人々の勇気が日本に広がり、新たな息吹が芽生えることを願って、これからも番組は「現場」を追い続けます。